

当社の取組状況について (宮城県産品の需要創出・理解醸成等)



1. 宮城県産品の魅力発信、消費拡大を通じた需要創出
2. 理解醸成に向けた取組
3. ALPS処理水放出に伴う損害賠償の検討状況
4. トリチウム分離技術の公募状況
5. ALPS処理水希釈放出設備等の状況

2022年9月17日
東京電力ホールディングス株式会社

1. 宮城県産品の魅力発信、消費拡大を通じた需要創出

- 当社は、**宮城県産農林水産物の需要創出**に向けて、これまで実施してきた社員食堂での県産品の利用促進や県産品の購入促進、宮城県の魅力を伝える取組等を、**関係する皆さまのご意見をいただきながら、今後さらに強化・拡充し、当社グループを挙げて継続的に実施**してまいります。

水産物をはじめとする宮城県産品の購入促進

- **本社社員食堂における宮城県産品の利用促進**
 - ー 4月より、本社食堂において、県産品を使用したメニューの提供を開始して以降、**使用する食材や提供メニューを順次拡充**し、7月以降は、第三水曜日「みやぎ水産の日」に**毎月、定期的**に実施しています
 - ー 今後も、**使用する食材や提供メニューの拡充と、定期的な実施**を継続してまいります
- **本社以外の社員食堂への展開**
 - ー 本社での取組を踏まえ、これまでに、**都内を中心に9事業所**において、県産品メニューの提供を実施しました
 - ー 今後、さらに**関東圏の事業所にも拡大**してまいります
【9月第三水曜日より、関東圏7事業所にも拡大予定】

【これまでの提供メニューと使用食材】



みやぎの海鮮旨塩ラーメン
【ホヤ・ワカメ・あおさ】



みやぎ牡蠣と帆立の
あんかけ焼きそば
【牡蠣・ホタテ】



みやぎホヤのペペロンチーノ
【ホヤ】



みやぎ牡蠣・帆立の
カークパトリック
【牡蠣・ホタテ】

水産物をはじめとする宮城県産品の購入促進

● 「みやぎ弁当」の提供

- 社員食堂のない事業所を中心に、**水産物や農産物など広く県産品を使用**した「みやぎ弁当」を提供することを企画し、10月開始に向けて、事業者等と協議を進めています
- 今後、継続的に取組むとともに、**グループ会社へも展開**してまいります



みやぎ弁当（イメージ）

● 全国の魚食振興の取組を通じた宮城県産品の利用推進

- 全国の魚食消費量拡大を目的に、2021年12月に開始したお魚総菜の定期お届けサービス「**Bon Quish(ボンキッシュ)**」において、**宮城県産水産物を利用した商品を販売**しています【宮城県産たちのおの煮つけ、金華サバの塩焼き等8品のメニューで県産品を使用】
- このほか、電気事業連合会の協力のもと、全国大の魚食振興に資する具体的な施策を引き続き検討のうえ、今後、積極的に進めてまいります



ボンキッシュ
Bon Quish
Quick dish with fish

宮城県産
たちのおの煮つけ



金華サバの塩焼き

1. 宮城県産品の魅力発信、消費拡大を通じた需要創出

水産物をはじめとする宮城県産品の購入促進

● 社内バザールの開催

- 9月14日、本社において、コロナ禍以降初となる、**宮城・福島復興大バザール**を開催しました
【水産加工品や農産品、菓子、酒類など販売】
- また、現在、バザール会場に来られなかった社員等に向けた**予約販売方式での販売も実施**しています
- 今後、**本社での開催を継続的に実施**していくとともに、**他事業所やグループ会社へも拡大**してまいります



9月14日 復興大バザールの様子

● 宮城県の魅力情報の発信による消費拡大・観光PR

- 社員やOB、グループ会社に対して、**都内アンテナショップ「宮城ふるさとプラザ」**さまの周知をはじめ、宮城県の魅力を伝える取組を通じて、**県産品購入の働きかけを実施**しています
【2022年2月以降、延べ15回の情報発信】
- 社員食堂での宮城県産メニュー提供時に、ポスターやノボリ旗の設置、観光パンフレットの配布等、**宮城フェアを実施**しています
- 今後も、**宮城県の魅力発信を継続**し、オンラインショップを活用した購入斡旋や県産品バザール、グループ会社における記念品・贈答品の購入斡旋など、様々な手法を活用し、**消費拡大や観光PR**に取り組んでまいります



社員向け情報誌（7月号）



宮城フェア・観光パンフレット



2. 理解醸成に向けた取組

- 当社は、ALPS処理水の取扱いについて、引き続き、宮城県の皆さま、**関係する皆さまのご懸念や関心にしっかり向き合い、一つひとつお応えしていく取組**を進めてまいります。
- 海域モニタリングでの測定結果や海洋生物飼育の状況、ALPS処理水関連設備の運用、放射線影響評価などの情報について、**分かりやすい形での発信を継続・強化**してまいります。

宮城県の皆さまにご理解を深めていただくための取組

● 関係する皆さまからご意見をお伺いする取組

- ー 当社公表内容をお知らせするための**個別のご訪問**時や、**生産者さまや流通加工事業者さまへの説明会**、さらには**イベント訪問の機会**等を通して、様々な**ご意見をお伺い**しています

【宮城県内：約100箇所へご訪問、説明会10回実施】

- ー その過程で、水産物の安全性に関する理解を深めたいとして、**より詳しい説明会**や、**海域モニタリング・海洋生物飼育に関する見学**等のご要望もいただき、現在、実現に向けて調整しています

● 宮城県内メディア等を通じた情報発信

- ー 福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水・処理水対策について、宮城県民の皆さまに、**県内の新聞でお知らせする取組を開始**しています

【2022年8月より開始。今後月1~2回の頻度で継続的に実施予定】

- ー 科学的根拠に基づく情報をお伝えいただけるよう、**県内メディアの皆さまへ、発電所のご視察会**等を実施しており、今後、**さらに強化**してまいります

福島第一原子力発電所の現状と取組みをお伝えします Vol.02
福島第一原子力発電所のいま

福島第一原子力発電所の放射性物質によるリスクを継続的に削減する「廃炉・汚染水・処理水対策」の取組みについてお知らせします。

多くの方々に支えられ、安全最優先に廃炉を進めています

- ① 廃炉作業は、現在、1日約400人が、使用済み燃料や廃炉工程で発生した放射性物質の処理作業などに従っています。
- ② 汚染水の処理、廃炉作業等により、廃炉作業現場における放射線量は大幅に削減し、また、作業現場への人が近づけました。
- ③ 廃炉作業は、安全が最優先の原則で進められており、廃炉作業の進捗は、廃炉作業の進捗に大きく影響しています。

● 県内で働く作業員(日雇)の状況

年度	人数
2011年度	4,100
2012年度	4,100
2013年度	4,100
2014年度	4,100
2015年度	4,100
2016年度	4,100
2017年度	4,100
2018年度	4,100
2019年度	4,100
2020年度	4,100
2021年度	4,100
2022年度	4,100

● 地下水の状況

● 廃炉作業の進捗状況

● 県内作業員が帰国する状況

皆さまからの声におこたえします

Q 発電所周辺の海の状況は、現在どうなっていますか？

A 経年経過による汚染水の自然浄化、自然浄化による汚染水の減少や対策により、汚染水の状況は改善傾向にあります。また、汚染水の減少により、汚染水の状況は改善傾向にあります。また、汚染水の減少により、汚染水の状況は改善傾向にあります。

● 福島第一原子力発電所の放射性物質(セシウム137)の濃度(リットルあたり)

年月	濃度
2011年3月	1000
2011年7月	1000
2011年11月	1000
2012年3月	1000
2012年7月	1000
2012年11月	1000
2013年3月	1000
2013年7月	1000
2013年11月	1000
2014年3月	1000
2014年7月	1000
2014年11月	1000
2015年3月	1000
2015年7月	1000
2015年11月	1000
2016年3月	1000
2016年7月	1000
2016年11月	1000
2017年3月	1000
2017年7月	1000
2017年11月	1000
2018年3月	1000
2018年7月	1000
2018年11月	1000
2019年3月	1000
2019年7月	1000
2019年11月	1000
2020年3月	1000
2020年7月	1000
2020年11月	1000
2021年3月	1000
2021年7月	1000
2021年11月	1000
2022年3月	1000
2022年7月	1000
2022年11月	1000

TEPCO

8月28日 県内の新聞への広告掲載内容

2. 理解醸成に向けた取組

客観性・透明性を確保するための取組

● 国際原子力機関（IAEA）の安全性評価

- 2月にIAEA調査団が来日し、ALPS関連設備の安全性と放射線影響評価について、国際安全基準に基づく技術的な確認・評価が行われました
【4月に報告書公表】
- IAEAからの指摘は、実施計画（7月22日原子力規制委員会認可）や、放射線影響評価報告書の見直しに反映しています
- IAEA調査団は11月に再来日し、2回目の安全性に関する確認・評価を行う予定です。引き続き、安全確保に万全を期すとともに、国内外に向けて透明性高く情報発信を行ってまいります



IAEA現地調査の様子

● 海洋生物の飼育試験 【Web/Twitterで飼育状況を公開中】

- 3月から、通常の海水を利用したヒラメの飼育練習を開始し、7月からアワビ、8月から海藻類（アオサ）の飼育を開始しました
- ALPS処理水を海水で希釈した水での飼育試験を、9月下旬頃から開始する計画です。以下の情報を公開してまいります
 - ◇ 海洋生物の体内と、飼育海水のトリチウム濃度の比較等
 - ◇ 飼育状況(飼育数の増減等)、水槽内のウェブ中継



海洋生物の飼育日誌



海洋生物飼育の様子

● 客観性・透明性を確保した海域モニタリング

- 4月から、発電所近傍を含む福島県沖の海域で、トリチウムを中心に採取点・頻度を拡充・強化した放射性物質モニタリングを開始しています
- 測定結果は、速やかに、かつ分かりやすい形で公開します（安全基準や過去の変動範囲等を明示）
- 農林水産事業者や自治体関係者等に、測定の状況等をご確認いただくなど、透明性確保に向けた取組を進めます

2. 理解醸成に向けた取組

国内外の皆さまにご理解を深めていただくための取組

● さまざまな機会をとらえた関係者とのコミュニケーション

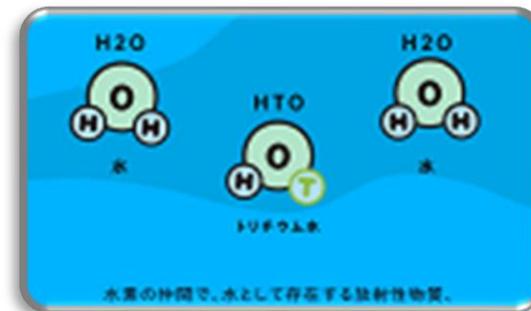
- **全社を挙げて**、首都圏をはじめ地域の皆さま（自治体を含む）や、関係する皆さまに、ALPS処理水に係る安全対策、風評対策等をご説明し、ご意見をお伺いする取組を進めています 【2021年度；約3,000回】
- その中で、**水産会社、百貨店・スーパー、飲食店等のご懸念の払拭**に向け、**首都圏の流通関係者や小売・飲食店関係者**等を対象に、ALPS処理水の安全性やトリチウムの性質等についてご説明を実施しています 【対話活動：2021年3月以降、約40回、約60社】
- **発電所のご視察**（オンライン形式を含む）の勧奨についても継続し、廃炉の取組や現状を知っていただく取組を進めてまいります

● 国内外への理解醸成の取組

- メディアを通じた情報発信（報道発表、記者会見、現場公開、広告等）に加え、特設Webサイト「処理水ポータルサイト」や、SNSを活用した発信等を通じ、消費者に正確な情報をお届けできるよう、さらに取組を進めてまいります
- **海外**は、「**処理水ポータルサイト（日・英・中・韓）**」の内容を充実しています
 - ※「動画でわかる。ALPS処理水」シリーズ 2022/3/30～ YouTube公開中（日・英）
 - ※「トリチウム」「放射線影響評価結果」の解説冊子を公開中（日・英・中・韓）
- 誤解を与える海外報道があった場合は、リターンコールして報道の真意を確認するとともに、当社の考えを伝える等の取組を継続してまいります
- これまでも国と連携し、**海外メディアや大使館向けに説明や会見**をしてきましたが、今後、海外メディア向けに定期的な記者会見を実施していく計画です



発電所ご視察の様子



YouTube「動画でわかる。ALPS処理水」



処理水ポータルサイト（中国語版）

3. ALPS処理水放出に伴う損害賠償の検討状況

- 当社は、風評影響を最大限抑制するべく対策を講じた上でもなお、**ALPS処理水の放出に伴う風評被害**(農林水産物の価格下落や事業の売上減少等)が発生した場合には、**その損害を迅速かつ適切に賠償**させていただきます。

損害賠償に関する検討状況等

● 風評被害の確認方法

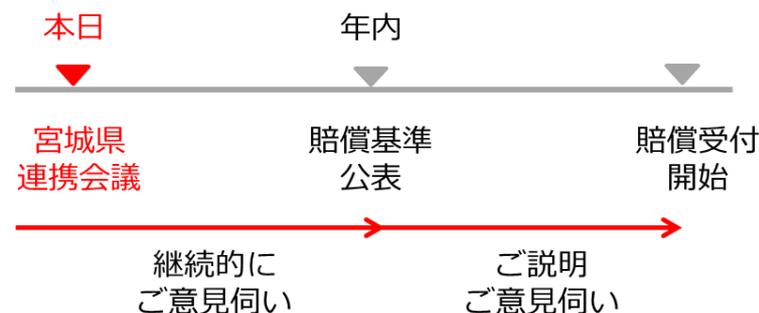
- ー 従来は、提出いただいた証憑をもとに確認していましたが、**ご請求者さまにご負担をおかけしないよう**、まず、当社にて、国や自治体、事業者団体さま作成の**統計データ**等から、対象地域における農林水産物の価格と全国における価格の動向を比較する等により、**風評被害の有無を推認する方法**を考えています

● 風評被害の算定方法

- ー 算定方法につきましては、事業者さま毎の実態を踏まえさせていただきますが、**損害額算定の基準とする年**や**新型コロナウイルス感染症の影響**の考慮方法も含めて、現在、具体的に検討しています

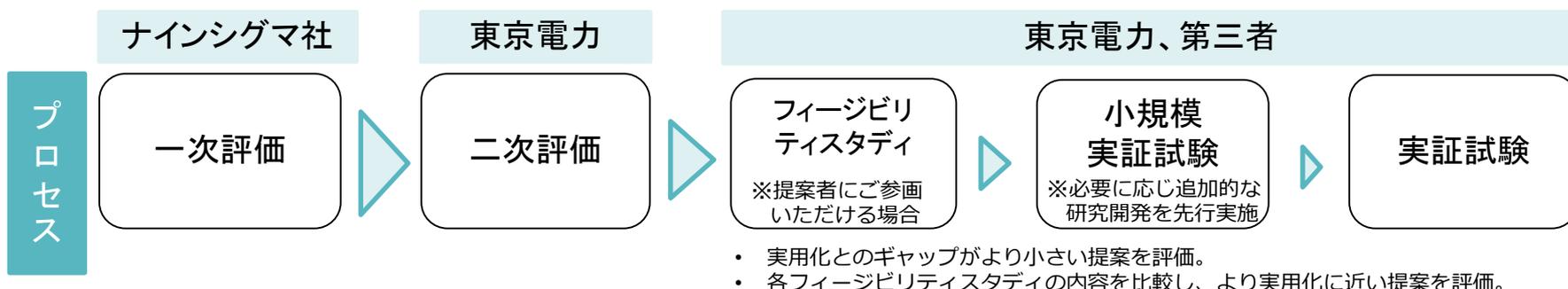
● 今後の進め方

- ー **関係団体の皆さまのご意見をお伺い**、より具体的な内容について検討を進め、それぞれの地域・業種の実情に応じて、**ご相談させていただきながら賠償基準を年内目途に公表**できるよう、取り組んでまいります



4. トリチウム分離技術の公募状況

- 当社は、**トリチウム分離技術実用化の可能性に係る技術動向調査**について透明性を確保するため、「**ナインシグマ・ホールディングス株式会社**」を選定し、国内外を対象にした**技術公募を2021年5月から実施**しています。
- 第1～4回の募集において、提案等総数110件に対し、ナインシグマ社の一次評価を14件が通過し、当社の**二次評価を14件が通過**しました。
- **現時点でALPS処理水に実用化できる技術は確認されていませんが**、当社は、**技術公募と評価を継続**し、また、二次評価を通過した提案の**実現可能性の検証**を進めてまいります。



	公募期間	応募数	評価通過数	
			一次	二次
第1回	2021/5/27 ～ 2021/9/30	65件	11件	11件※
第2回	2021/10/1 ～ 2021/12/31	22件	2件	2件
第3回	2022/1/1 ～ 2022/3/31	13件	1件	1件
第4回	2022/4/1 ～ 2022/6/30	10件	0件	—

※ 9月1日時点で、第1回の二次評価通過11件のうち、9件が**フィージビリティスタディ（具体的な条件を踏まえた実地適合性・実現可能性の検証）**等への参画意向を示しており、現在、フィージビリティスタディ開始に先立ち、秘密保持契約を締結すべく準備を進めているところです。

- ALPS処理水の取扱いについては、2021年4月以降、政府の基本方針の内容を具体化するための検討を進め、同年12月に、ALPS処理水希釈放出設備等の設置に係る実施計画変更認可申請を原子力規制委員会に提出していましたが、その後、IAEA調査団の安全性評価や、国の安全審査を経て、**2022年7月22日に認可**をいただきました。
- また、**2022年8月2日**、福島県、大熊町および双葉町より、設備の設置に係る**事前了解をいただき**、同年**8月4日より**ALPS処理水希釈放出設備等の**工事に着手**しました。
- 当社は、設備等の設置にあたり、政府の基本方針を踏まえた取組を徹底するとともに、さらなる安全性向上のための措置や分かりやすい情報発信を進めてまいります。

ALPS処理水希釈放出設備等の安全最優先での工事実施と情報発信

- **工事の進捗状況等に関する情報発信**
 - 当社は、2023年春頃の設備設置完了に向け、**安全最優先**で工事を進め、その**状況については、適宜お伝えしてまいります**
 - 加えて、自治体の安全確認、国際原子力機関（IAEA）のレビュー等に真摯に対応し、**客観性・透明性を確保**することで、国内外から信頼いただけるよう取り組んでまいります
 - 宮城県の皆さまを始め、広く社会の皆さまに、**科学的な根拠に基づく情報を分かりやすく発信**する取組をさらに進めるとともに、様々な機会をとらえ、皆さまのご懸念やご意見をお伺いし、当社の考えや対応について**説明を尽くす取組を継続**してまいります

ALPS処理水希釈放出設備等の設置工程

- 政府の基本方針を踏まえ、2023年春頃の設備設置を目指し、安全最優先で進めてまいります
- 他方、各工程には気象や海象条件等の変動要因（不確実性）があることから、設備の設置は夏頃となる可能性があります

	2022年度									2023年度			
	7	8	9	10	11	12	1	2	3	1Q	2Q	3Q	
測定・確認用設備		循環ポンプ・かく拌機器・配管等の設置											
移送設備		処理水移送ポンプ・海水移送ポンプ・配管等の設置											
希釈設備						上流水槽の構築							
放水設備									下流水槽の構築				
		放水トンネルの構築・放水口ケーソンの設置											
その他		仕切堤の構築他											
系統試験										試験関係			

: 現地据付組立
 : 試験関係



トンネル掘進を実施中
約100m/約1,030m
(9/12現在)

現在

※本工程は、今後の進捗等を踏まえて、見直すことがある

ALPS処理水希釈放出設備等の全体像

